

1 予算案のポイント

一般会計当初予算の規模

6,390億円 (対前年度 +201億円・+3.2%)

- ・ 過去最大の規模
- ・ 過去の減債基金借入金を除いた場合 6,251億円 (対前年度+207億円・+3.4%)

市税収入 **3,015億円** (対前年度 +52億円・+1.8%)

- ・ 初めて3,000億円を超える
- ・ 3年連続で過去最大

市債 **592億円** (対前年度 +76億円・+14.7%)

- ・ 義務教育施設の再生整備・予防保全の推進
京浜急行大師線連続立体交差事業の推進 などによる増
- ・ 昨年度に引き続き500億円台の低い水準

減債基金新規借入金

92億円 ※

- ・ 厳しい財政状況においても『最幸のまち かわさき』の実現に向けた取組を切れ目なく推進
- ・ 24年度決算からの借入総額は231億円



『成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき』
の実現をめざします

「安心のふるさとづくり（成熟）」

○待機児童対策の継続的な推進

待機児童解消の継続に向けた保育受入枠の拡大、質の担保・向上、保育士確保対策などを実施

○小児医療費助成制度の充実

小学校3年生までの通院助成の拡大と、小学校6年生までの拡大に向けた取組を推進

○中学校完全給食の推進

小中合築校方式及び自校方式による先行実施と、全校実施に向けた取組を推進

○川崎らしい地域包括ケアシステムの構築に向けた取組

助け合い・支え合いの地域づくりに向けた区役所体制の強化

「力強い産業都市づくり（成長）」

○国際化に対応したイノベーションの推進

少子高齢化、地球温暖化などの課題を、新産業の創出に結びつける取組の推進

○臨海部における国際戦略拠点の形成

羽田空港との近接性を活かし、日本経済の発展を牽引する拠点形成を推進

○中小企業の支援・商業の振興

「中小企業活性化のための成長戦略に関する条例」に基づく取組を推進

○広域拠点・地域生活拠点等の整備

鉄道駅を中心とした便利で快適な暮らしを実現

「今後の財政運営の基本的な考え方」に基づき 持続可能な行財政基盤の構築に取り組みます

※
「最幸のまち かわさき」を実現し、将来もそうあり続けるために、
次の基本的な考え方に基づき財政運営を進めます。

① 効率的・効果的な事業執行の推進

民間活力の活用、資産マネジメントの取組 など

② 財源確保に向けた取組の推進

市税等の債権確保策の強化、市有財産の有効活用 など

③ 将来負担の抑制

市債残高の適正管理、減債基金借入金の計画的な返済 など

④ 「収支フレーム」に沿った財政運営

持続可能な行財政基盤の構築に向け、指針に沿った財政運営

⑤ 財政運営の「取組目標」の設定

- ・継続的な収支の均衡
- ・プライマリーバランスの安定的な黒字の確保
- ・減債基金借入金の計画的な返済

「今後の財政運営の基本的な考え方」については、27 ページ参照

「行財政運営に関する改革プログラム」に基づく 取組の効果を確実に反映しています

① 市役所内部改革

公共サービスにおける民間部門のさらなる活用や、
効率的な行政運営に向けた組織体制整備を実施

② 施設整備事業等の見直し

中長期的な財政収支を見据えた総合的な調整及び
効率的・効果的な手法等の導入を実施

③ 既存事業等の見直し

当初の目的が既に達成されたもの、より効果的な手法に見直す
必要があるものなどについて取組を実施

※「最幸」とは・・・川崎を幸せのあふれる「最も幸福なまち」にしていきたいという
思いを込めて使用しています。

2 予算の規模

28年度の一般会計、特別会計及び企業会計を合わせた全会計の予算規模は、**1兆3,880億2,599万円**で、**前年度に比べ492億円の増(+3.7%)**となっています。

会計名	28年度予算	27年度予算	増減率
一般会計	6,389億8,223万円	6,188億7,204万円	3.2%
特別会計(13会計)	5,226億8,056万円	4,995億700万円	4.6%
企業会計(5会計)	2,263億6,319万円	2,204億362万円	2.7%
合計	1兆3,880億2,599万円	1兆3,387億8,266万円	3.7%

※端数処理の関係で、合計欄の予算額と各会計の予算額の合計が一致しない場合があります。

一般会計は 201 億円・3.2%の増

京浜急行大師線連続立体交差事業や、義務教育施設の再生整備・予防保全の進捗による増などにより、**前年度に比べ201億円の増(+3.2%)**となっています。

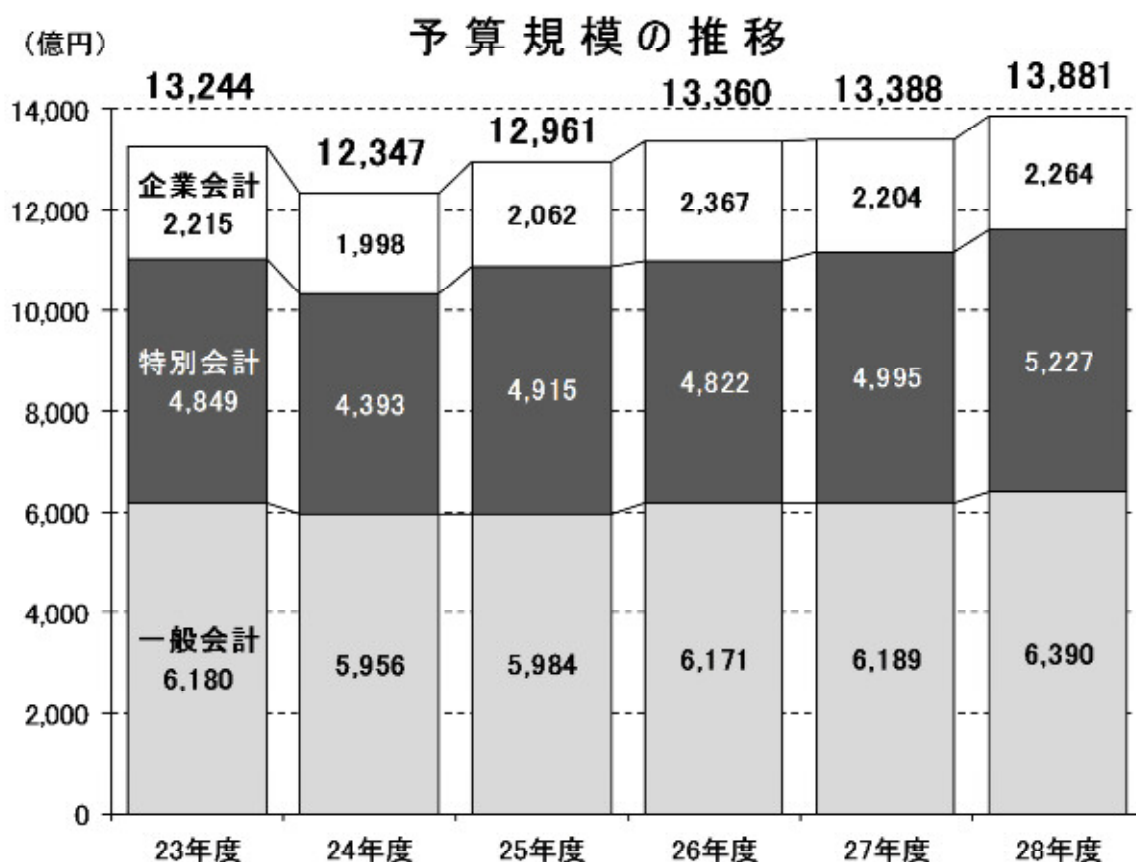
※ 一般会計について、過去の減債基金からの借入額(28年度139億円、27年度145億円)を除いた場合の予算額は、28年度6,251億123万円、27年度6,043億7,204万円、207億2,919万円の増となります。

特別会計は 232 億円・4.6%の増

公債管理会計における市債の償還元金の増、介護保険事業の給付費の増、公共用地先行取得等事業会計における土地売払いの増などにより、**特別会計(13会計)合計では前年度に比べ232億円の増(+4.6%)**となっています。(107ページ参照)

企業会計は 60 億円・2.7%の増

水道事業会計における施設再構築事業の進捗による減などがあるものの、下水道事業会計における企業債償還元金の増などにより、**企業会計（5会計）合計では前年度に比べ 60 億円の増（+2.7%）**となっています。（101～106 ページ参照）



- （左から）
- ・下水道キャラクター 「カッピー」
 - ・水道キャラクター 「ウォーターン」
 - ・市バスイメージキャラクター 「かわさきノルフィン」